



たかしま

Takashima City
Public Relations

広報

2017
平成29年
4月号
No.207



立志祭

市内各小学校で、中江藤樹先生が9歳で学問を志したことになみ、将来の夢を語ったり、中江藤樹先生の生き方を学んだりしました。写真は、藤樹カルタで楽しみながら学ぶ子どもたち。(高島小学校)

主な内容

- 特集1 福井正明市長 所信表明 ……②
- 特集2 地域で支え合い住みよいまちへ ……⑥

★今月号に掲載している課名などは編集時のものです。4月1日以降、課名や電話番号が変更になる場合がありますのでご了承ください。

無料アプリ「マチイロ」で広報たかしまが読めます！

「広報たかしま」はスマートフォンアプリ「マチイロ」でも配信しています。スマートフォン等から当アプリをダウンロードしてお使いください。

※アプリのダウンロードは無料ですが、通信費は利用者のご負担になります。



市の花
カイツバタ



市の木
サクラ



市の鳥
ヒバリ

マチイロ

検索

福井正明市長 所信表明



高島市を次なるステージへ 将来に向けた礎を築く

おこし

この度の高島市長選挙におきまして、大変多くの市民の皆様からのご支持をいただき、2期目の市政をお預かりすることになりました。市民の皆様のご期待にしっかりと応えるためにも、誠心誠意、全力で市政運営にあたらないければならないと決意を新たにいたしますとともに、改めてその責任の重大さを認識しているところであります。

4年前の平成25年2月に初めてこの高島市長の職をお預かりし、これまでの4年間、実にさまざまな事案が発生いたしました。その都度、各メディアなどに取り上げていただき、市民の皆様には、そ



平成29年2月28日開会の高島市議会定例会において、福井正明市長は、2期目の市長就任にあたっての所信を述べました。ここでは、その概要を紹介いたします。

の時々々の市政のあり方が伝えられましたが、時には大変な心配や、ご迷惑をおかけしてしまつたところでもあります。

こうした事案の多くが、それまでに必要な課題への対応が先送りされていきました結果の表れであったり、また、この高島市がいつかは乗り越えなければならぬ課題でもありました。このような課題への対応は、高島市という自治体が変わらなければならない長い歴史の中でまさに試金石であり、その対応を誤つたり、また、さらに先送りすることを選択すれば、将来におけます歴史的な評価となつて表れるものであると自分自身にも言い聞かせながら精一杯の対応

さらには、地域コミュニティや集落機能の低下、地域産業の担い手の減少による農地や山林のさらなる荒廃といったことが容易に予想されます。

このため、平成27年10月に「高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定いたしました。人口減少がもたらすさまざまな課題を克服し、将来にわたって安心して暮らし続けることができる地域社会づくりを進めるため各種施策を推進してまいりました。

例えば、若者定住につなげるために中学3年生までの医療費の完全無料化や保育料の無料化などにより子育て支援の充実、あるいはふるさと納税の取り組みや、特産品海外販売戦略等の事業展開によりまず地域産業の活性化や雇用増進、さらには、今年から現場着工を迎えます会員制リゾートホテルの誘致等、さまざまな施策を組み合わせながら事業展開を図つてまいりました。

また、今年4月からは、職員の皆さんの手作りで作りあげていただいた第2次高島市総合計画の初年度を迎えることになり、これからの10年間、高島の魅力である水と緑を守り、そしてその生活から

生まれる「恵み」を大切にしながら、高島市に「誇り」を持てるまちづくりを進め、「住みたい、住み続けたい 高島」の実現に向けて、計画的、総合的に全庁あげて取り組むこととなります。

次のステージへ

まさにこれからの4年間は将来の高島市のまちづくりそのものを方向付ける極めて重要な時期を迎え、次なるステージへ導くための転換期とも位置付けております。こうした取り組みを継続することが、今の高島市にとりまして、最も重要なテーマでもあります。私達の次の世代に自信と誇りを持つて引き継ぐためにも、総力を挙げて取り組まなければなりません。



をしてきました。

そしてまた、私に信頼をお寄せいただき、支持していただきました多くの市民の皆様のご期待や信頼を裏切ることには許されず、そして、そうした対応がこの職をお預かりしている立場にある者の責任と受け止め、ひたすらたゆまない努力を傾注してきたところであります。

人口減少問題に対して

しかしながら、高島市は、今なお、さまざまな課題を抱え、中でも、人口減少は大きな課題でもあります。平成17年1月に6町村が合併して、今年で13年目を迎えますが、合併当時、人口が約56,200人でありましたところ、今では50,257人となり、約6,000人の減少、率にいたしますと10・6%減となっております。こうした人口減少の問題は、高島市だけではなく全国の自治体が直面する、喫緊の課題でもあります。人口減少問題は近い将来、地域経済に大きな影響を及ぼすことにつながり、地域全体が疲弊し、

6つの新未来政策

そのために、先の市長選挙で市民の皆様には、6つの新未来政策をお示しさせていただきましたが、この機会にその一端を述べさせていただきます。

1 産業・観光振興

「産業」：現在ではすでに構想を練り上げているところですが、会員制リゾートホテルの誘致に続く次なる複数のプロジェクトの実現に向けた取り組みにより、雇用の確保や地域経済の活性化、更なるふるさと納税制度の充実による地場産業の活性化を図ります。

「観光振興」：白鬚神社やメタセコイア並木等の観光スポットを活用した観光振興による地域の活性化を図ります。

2 子育て・教育・女性

「子育て」：中学3年生までの医療費や保育料の無料化を実現しましたが、更なる充実を図ります。



朽木の外出支援を考える会のちらし (提供：朽木住民福祉協議会)

朽木の外出支援を考える会のちらし (提供：朽木住民福祉協議会)

現在、市内には約2000の自治会(区・町内会など)があります。自治会の規模はさまざまですが、500世帯を超える地区もあれば、20世帯に満たない地区もあります。また、明治以前から続く集落もあれば昭和後期に開発された住宅地もあり、当然課題も活動も違ってきます。

前述のグラフは、昨秋に実施した「区長・自治会長アンケート」の結果です。地域の現状はさまざまですが、回答いただいた自治会長さんの半数が挙げら

『地域の現状』

れているのが

「見守りが必要な世帯が増えてくる」

「役員のなり手が無い」

「活動等への参加者が少ない。固定化している」

「役員の負担が大きい」

などです。

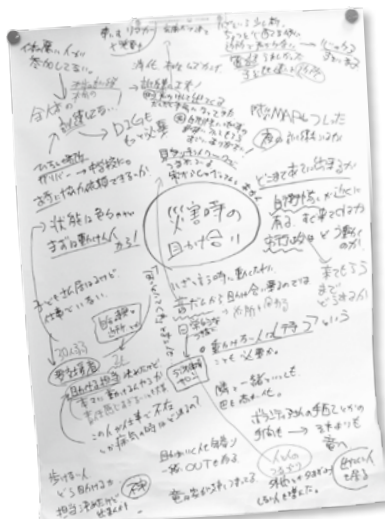
では、これらの課題を解決するためには、どうすればよいのでしょうか。

『地域の気づき』

買物や通院手段の確保、高齢ドライバーの交通事故増加など、移動に関する困りごとが

「見守りが必要な世帯が増えてくる」と、住民グループを中心に活動されています。このような動きは朽木以外の地域でもみられ、地域の共助により近所の課題を解決しようとする動きが活発になっています。

また、「みんなで支えあう地域づくりを考える集落座談会(平成28年度11地域で開催)では、「自分たちの地域が直面している課題」や「解決するための手段や方法」についての話し合いが熱心に行われました。地域の課題には「今すぐ」、「また「今のやり方」では、解決できないものもあります。しかし、そこに住む人それぞれがお互いの立場や属性を認め合い、話し合うことで「納得」を積み重ねていくことが大切です。対話により生まれる関係性の中で、具体的な行動が生まれることがあります。



座談会での意見をまとめた模造紙



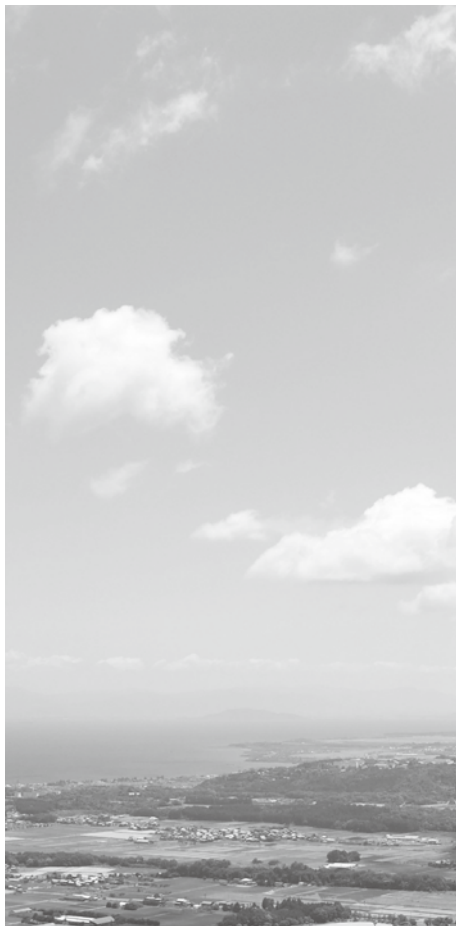
集落座談会の様子(平成28年8月 電自治会)

地域で支え合い 住みよいまちへ

特集2

「向い三軒両隣」という言葉をご存知ですか。自分の家から道を挟んだ向こう側の3軒と両隣の2軒とは親しく近所づきあいをし「お互いを思いやる関係」で地域をまとめてきたつながりを表すものであり、「い」から自治会は始まったと言われています。

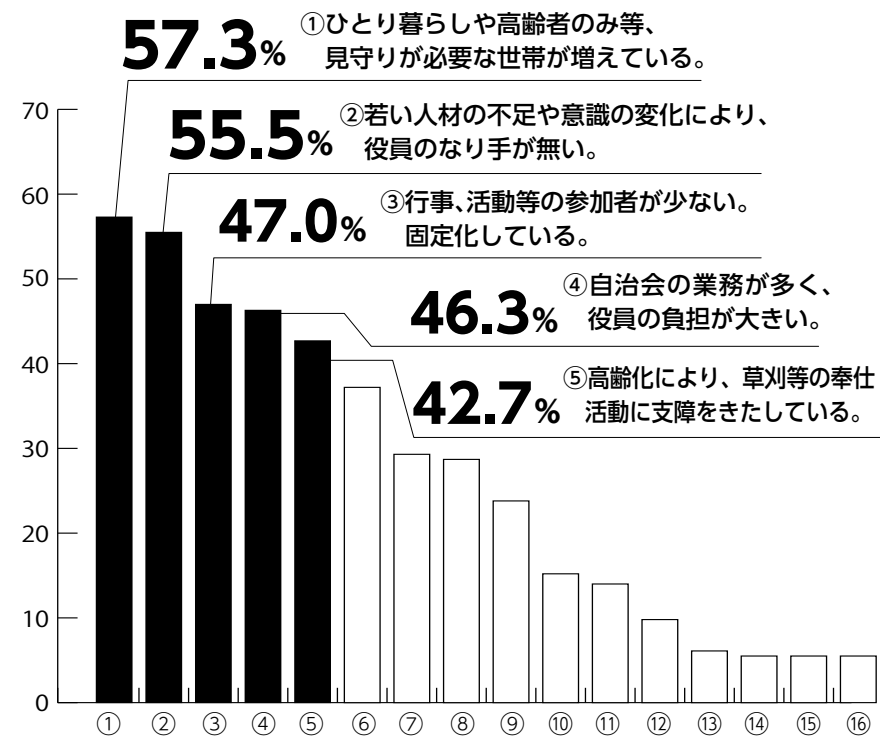
今回、いま地域で起っていることや、これからの事にじっくりお知らせします。



区長・自治会長さんにお聞きしました。

自治会活動の中で、どのようなことにお困りですか？ (複数回答可)

(※1「平成28年度 区長・自治会長アンケート」より一部抜粋)



※1「区長・自治会長アンケート」結果の詳細は市ホームページで公開しています。

自治会活動、応援します /

市では、自治会活動を応援する制度をご用意しています。住民間の交流や防犯灯・ゴミかごの修繕をはじめ多様なまちづくり活動を応援するための「みんなで創るまちづくり交付金」をはじめ、集会所の新築や修繕、防災設備の購入や地域で除雪作業を行う費用に対する補助金、自治会対象の貸付制度などを設けています。

また、地域の問題解決のための話し合いにご利用いただける集落座談会や各種の出前講座といった職員の派遣制度、個別に見守りや支援が必要な家庭の相談については、保健師など専門職員による個別訪問も行います。

また、自治会活動と市民団体による活動の連携や、地域への応援団がないか等といった相談については、たかしま市民協働交流センター（事務局は今津東コミュニティセンター内 ☎（20）5758）でお受けしています。

詳しくは、市民協働課または各支所のまちづくり担当職員にご相談ください。

☎市民協働課 ☎（25）8526



「まちづくり交付金の実績写真（花いっぱい運動、ごみ集積所）」

次号から、「がんばる自治会（仮称）」の連載を始めます。きらりと光る活動をされている自治会、地域、集落がありましたら取材に参りますので、ぜひご連絡ください。

もに、地域と地域を連携する」と定めています。今後は、人口減少により集落機能の維持が困難と予測される中、生活圏の中で地域活動や生活サービスを支える地域運営の仕組みづくりに向け、集落が担っている機能や役割を整理し、周辺集落と連携して次世代の担い手を育成し、機能維持を目指す活動を推進していく予定です。



地域の見守り活動

（出典）高島市社会福祉協議会作成「見守りネットワークのマトメ」

また、市では一昨年に策定した「高島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の一つに「時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守ると」という当事者意識を持って地域運営組織をつくり活動することが必要であり、行政はその組織づくりを支援するとしています。



子ども会や祭



大雪時の助け合い

『地方創生』 …行政の動き

国では、地域の課題解決を目指す取り組みについて「まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版2015」の中で、将来的な集落の維持が危ぶまれる地域等における「小さな拠点」の形成を推進しています。これは、集落を基礎とする日常生活圏における生活や仕事を支えるための住民主体の取組体制づくりや利便性の高い地域づくりを目指す施策であり、そのために地域住民自身が「自分たちでできる」とは行政ではなく自分たちでやる」という当事者意識を持って地域運営組織をつくり活動することが必要であり、行政はその組織づくりを支援するとしています。

『地域のつながりを大切にする』 とうとう！

自治会は、地域に住む人々がともに支えあいながら、安心して安全に暮らせる地域づくりを行うために自主的に組織されている団体です。しかし、自治会を取り巻く環境は年々変化し、災害時の初動対応や高齢者の見守りなど、個人の活動や行政だけでは限界がある分野において、その意義や期待される役割はますます大きくなっていきます。

いま、必要な活動をみんなで共有し、それぞれが「やれること」を分担するなど、自治会の在り方にも変化が求められています。

しかし、難しく考えすぎずに、まずは自分のできることや得意な分野で参加してみてください。きっと、達成感ややりがい、お互い様の暮らしを実感されるはずです。自治会活動に参加し

て、あなたの力を住みよい地域づくりに生かしてみませんか。

☎市民協働課
☎（25）8526

高島市公式

フェイスブックとInstagramをはじめました

高島市の公式 Facebook ページと Instagram をはじめました。

○ Facebook 「あっと高島【高島市役所】」

市の魅力や市のお知らせ情報を配信します。

○ Instagram 「takashima_city【#たかP写真館】」

市の魅力を写真で紹介します。

それぞれ、**高島市** で検索して登録をお願いします。



たかP

☎秘書広報課 ☎（25）8000